

日本産酒類の輸出促進連絡会議 説明資料

2013年3月
農林水産省食料産業局

1 攻めの農林水産業推進本部の設置について

平成25年 1月29日
農 林 水 産 省

攻めの農林水産業推進本部の設置について

1. 趣旨

生産現場の潜在力を引き出し、その活性化を図り、農林水産業の中期的な展望を切り開く観点から、省内に大臣を本部長とする「攻めの農林水産業推進本部」を設置する。この本部においては、現場の実態を重視しながら、

- ① 農林水産業の多面的機能を評価した「日本型直接支払い」、「経営所得安定制度」を中心とする「担い手総合支援」の具体化
- ② 我が国農林水産業の強みを分析し、内外の市場開拓、付加価値の創造等の具体的戦略の検討を通じ、消費者ニーズの変化に即応し、多様な関係者を巻き込んだ我が国農林水産業の新たな展開の具体化

を検討していく。

具体的検討は「制度見直し検討委員会」及び「戦略的対応推進委員会」において行う。

2. 本部の構成

本部の構成は以下のとおりとする。

本部長	林 大臣
副本部長	江藤 副大臣 加治屋 副大臣
本部長補佐	長島 大臣政務官 稲津 大臣政務官
本部事務局長	事務次官
本部員	農林水産審議官 官房長 総括審議官 総括審議官（国際） 技術総括審議官 全局庁等の長

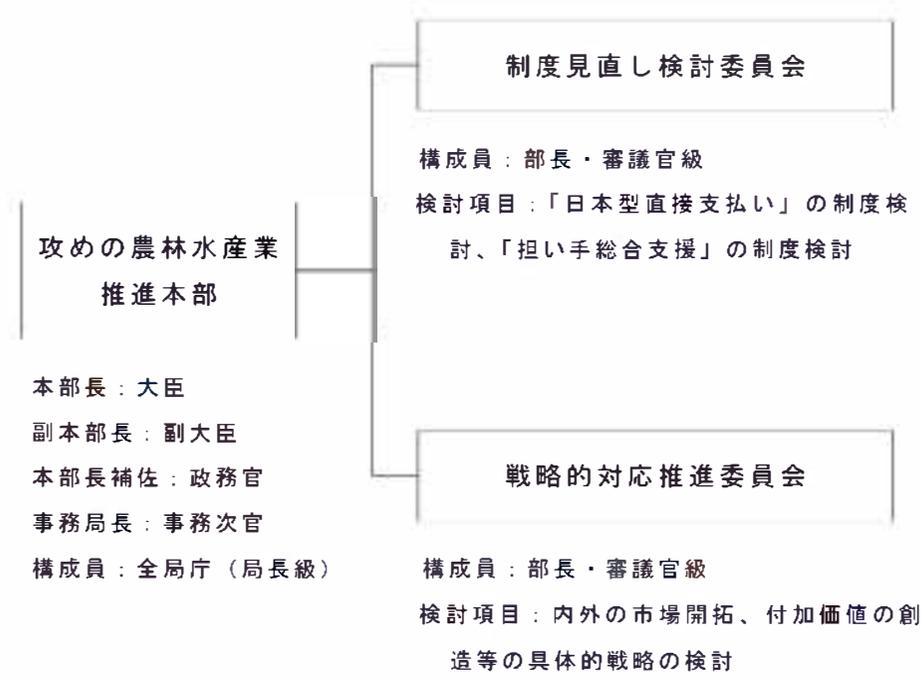
3. 本部の庶務

本部の庶務は、大臣官房政策課で行う。

4. 具体的検討体制

- (1) 「制度見直し検討委員会」（部長・審議官級）
- (2) 「戦略的対応推進委員会」（部長・審議官級）

（参考）検討体制について



2 日本酒を通じた日本食文化普及への取組

2012年

2月 米国LA
Japanese Food & SAKE
Collection



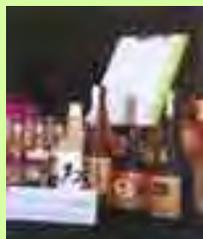
3月 香港・台湾・シンガポール
店頭での料理デモ



7月 英国:ロンドン
ロンドン五輪ジャパンハウス「VIPレセプション」



9月 中国:天津
ダボス会議「ジャパンナイト」



2013年

2月 スイス:ダボス
ダボス会議「ジャパンナイト」



2月 フランス:パリ
日本食文化週間



世界中からエグゼクティブが集う場で日本酒を通じて日本食文化を世界へ発信

3 イノベーション創出のための政策的取組

<共通の政策シーズの創設>

農林漁業成長産業化ファンド

- ・国と民間の共同出資によって、(株)農林漁業成長産業化支援機構を設立
- ・農林漁業成長産業化ファンドを造成
- ・これまでの取組では形成困難であった異業種との強力な結びつきを、ファンドによる戦略的連携により実現

知的財産の戦略的保護と活用の推進

- ・我が国には、農林漁業の優れた技術・品種、地域の特色のある自然環境に支えられた農林水産物・食品が存在
- ・農山漁村の知的財産を確実に保護し、優れた農林水産物・食品の価値を消費者まで伝える取組を推進

技術開発・産業化支援

- ・農山漁村の資源と革新的な技術の融合により、新産業を創出する必要
- ・緑と水の環境技術革命総合戦略を検証し、市場ニーズに即した産業化を支援

5つの新結合により革新を誘発

新しい財貨

1次産業 × 2次・3次産業

新商品・新サービスの開発

農山漁村の価値 × 消費者

農山漁村の価値の再評価・発見 - 新たなブランド、観光・グリーンツーリズム -

新しい生産方法

工業・医療・IT等 × 農林漁業・食品産業

フードチェーン全体の商習慣の見直し、異分野の技術を導入したAI、植物工場、完全養殖

新しい販路

未開拓の市場 × 農林漁業・食品産業

伸びゆくアジア市場への輸出、医食農連携による健康・未病食品、介護食等新たな市場の創造

新しい原材料

農山漁村の未利用資源 × 産業技術

バイオマス、太陽光、水力、風力等の地域資源を活用した産業の創出

新しい組織

個人・組織 × 個人・組織

異分野との交流、知見の共有から新たなつながりへ

<主要な取組>

- ・6次産業化の新展開
- ・地理的表示の保護制度の導入

- ・食品ロス削減の取組
- ・AIによる「匠の技」の継承
- ・植物工場の推進

- ・新たな輸出戦略
- ・日本食文化の活用
- ・食品産業のグローバル展開
- ・医食農連携の探求

- ・再生可能エネルギーの推進
- ・バイオマス産業都市

- ・産業連携ネットワーク
- ・食と農林漁業の祭典